

マサコラム 1 2

活断層の定義と耐震安全性の真実

日本の地球物理学者は「断層は地震の結果として生じるものである」と考えていた時代がある。しかし、現在は逆に「地震は断層が引き起こす」と言われている。断層は活断層である。活断層の定義は「最近の地質時代に繰り返し活動した断層」とあるが「活動の痕跡が地形に残っているもの」と言っていないことである。現時点での活断層マップは過去の断層の動きが地形に明瞭に現れて、変形が認められるもののみを航空写真等を駆使して作成されている。従って、関東地方の関東ローム層の平野部、堆積層の厚い場所は地下に活断層が隠れていても知る事ができない。それでも発見した活断層は現在、日本全体で2000個あると言われている。しかし、地震予知に必要な繰り返しの回数と

最後の地震を引き起こした時期が分かっているものは全体の1-2%であると言う。最新の地盤工学は「どの活断層がどのように動くか」の震源モデルさえ、特定できれば建設地の地表面に発生する模擬地震波は作成できる。その場合も、活断層の動き方も変位量、速度、は仮定であり、あくまでも未知数である。又、地震は断層の動きのみではなく活褶曲(各地層の重なり面のズレ)も地震になると言われている。この事実から「我々の行う耐震設計が自然現象である地震に対しては、きわめてあいまいな根拠の上に成り立つものであり、現状の建物は現在の工学水準の仮定に、法律上の規制も重なる砂上の楼閣に等しいものと言わざるを得ない。」本質からはずれた細かな数値の正誤に翻弄される法改正後の建築確認申請制度の現状から、建物の耐震安全性に対する正確なる情報を施主である一般の人に与える事が急務であると考えます。 眞崎雄一

JSCA千葉ニュース(冬)

発行(社)日本建築構造技術者協会 JSCA千葉(広報委員会)
〒261-0004千葉県千葉市美浜区高洲3-20-38(株)齋藤建築設計事務所内 TEL 043-225-2181
FAX 043-277-0906

JSCA・千葉2007年総会及び特別講演会・懇親会の開催さる

去る5月31日(木)午後1時30分より三井ガーデンホテル千葉4階にて出席者36名のもと2007年度第10回定期総会が開催されました。

平成18年度の事業経過報告、決算報告、平成19年度の事業計画案、収支予算案及びJSCA・千葉規約案について審議され承認、可決されました。

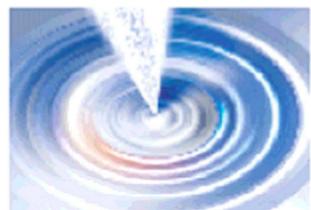
特筆すべき項目としては、6月1日よりJSCA・千葉ホームページが開かれることが上げられます。その内容については、作成経緯を踏まえホームページ委員会の加藤義道委員長より報告がありました。また、JSCA・千葉規約につ

いては従前より運用されてきたものの、正式な形で再度会員の皆様の確認・承認をいただく形として提示されました。本規約に対しては、今後ご意見等を寄せていただくこととして内容を紹介するにとどめられました。



森田耕次千葉大学工学部名誉教授をお招きして

(園部、二面に続く)



アルファフォース パイル工法

国住指第1284-1号
国住指第1285-1号

回転貫入鋼管杭(先端翼付き鋼管杭)

無振動・無排土で様々な用途で抜群の強度を発揮するJIS鋼管仕様の先端拡底型杭工法。

支持力No.1

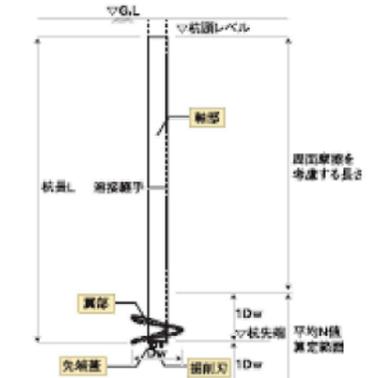
地盤から求める先端支持力は現在の国土交通大臣認定工法中、トップクラスです。

強度No.1

鋼管本体にもっとも負担がかかる先端翼の始点取付部分を先端閉塞蓋の一部と一体化することで負担を軽減しました。(特許取得)

コストNo.1

開発～国土交通大臣認定取得まで一貫してスポンサーを付けずに行ったため、杭材に大きな経費がかかりません。杭先端が均一幅でスムーズな螺旋の一枚翼なので、周辺地盤を乱さずにスムーズに回転貫入できるため、高い施工品質と低い施工費が実現できます。



(その他取扱い)標準貫入試験・サンドパイル工法・ソイルセメントコラム工法・RES-PI工法等

エイチ・ジー・サービス(株)
〒275-0024 千葉県習志野市西浜1-4-1
TEL:047(408)0785 FAX:047(408)0786
URL:http://www.hg-s.co.jp E-mail:hgs@hg-s.co.jp

JSCA千葉役員会議事録抜粋(坂恵)

役員会 代表 齋藤美佐男 副代表 向後 勝弘 園部 隆夫 総務委員会 坂恵 一巳 長内 光雄 向後 勝弘 園部 隆夫 会員委員会 明智 孝夫 齊藤 利彦 鈴木 泰久 研修委員会 園部 隆夫 市原 嗣久 竹下 章治 西澤 博文 広報委員会 安田 良一 加藤 義道 菅谷 修作 技術委員会 市原 嗣久 齊藤 利彦 佐藤 暢彦	富島 誠司HP 委員会 加藤 義道 明智 孝夫 向後 勝弘 佐藤 暢彦 安田 良一監 事 飯島 宏治 眞崎 雄一 平成18年度 第11回3月28日 (13:00~15:00) 出席:齋藤代表他12名 1. JSCA本部および関連他団体についての報告 2. 検討事項 (1)総会開催日の検討。 (2)JSCA千葉ホームページ(以下、HP)の最終バージョン案の検討。 (3)JSCA千葉規約の修正の上、HPに掲載すること	とした。 (4)構造計算適合性判定制度が固まってきており、その紹介があった。 平成19年度 第1回4月26日 (16:00~18:00) 出席:齋藤代表他16名 1. JSCA本部および関連他団体についての報告 2. 検討事項 (1)総会開催日を5月31日とすることで決定。 総会での講演会の詳細をきめた。講師・演題:元千葉大教授森田耕次「最近の建築溶接の話題」 (2)エイチ・ジー・サービス(株)より入会希望があり、承認された。同社は、地盤調査、地盤改良	を行っている。 (3)現場見学の提案があり、検討を行った。 第2回5月18日 (16:00~18:00) 出席:齋藤代表他16名 1. 検討事項 (1)5月31日に総会をひかえているため、総会、講演会、懇親会の準備について詳細な検討を行い、スケジュール、担当、準備資料、準備機器類を確認した。 (2)総会資料の最終確認 (3)HPの確認を行った。 (4)今後の技術委員会のテーマに地盤改良を取上げたいとの提案があり、了承された。 第3回6月22日	(16:00~18:00) 出席:齋藤代表他15名 1. JSCA本部および関連他団体についての報告 2. 検討事項 (1)総会報告があった。 ・総会出席者数34名 ・収支報告では赤字が出たとのことで本会計から充当することとなった。 (2)技術委員会および研修委員会では、構造計算適合性判定関係を精力的に取上げることとなった。 (3)見学会は、電炉メーカーへの訪問・研修を行う方向で検討することとなった。
---	--	--	---	--

編集後記(2007.12.2)

「限界集落」という言葉がある。これは限界状態設計法とはちがいで、人々の暮らしに関する言葉らしい。平均年齢65歳以上の人々が50パーセント以上をしめた状態に対して用いている言葉で、今後10年先には消滅すると思われる集落のこと。日曜朝のある番組の特集を見てハッと思った。国土の保全と限界集落には密接な関係があるといわれる。林野庁は1960年代に国策として日本のあらゆる山林、山間農地に針葉樹の植林を奨励した。県を通じて補助金を出し、広葉樹から針葉樹に変換する政策をとった。その結果、当時8対2であった広葉樹対針葉樹の比率が現在では6対4までになってしまったとの事である。今日、全国各地で起きている地スベリや森林崩壊の主な原因はこの政策による森の保水力低下にあるという。番組

では高知県内の二つの集落を紹介している。一つの集落は国策に従い山間の田畑を杉林にした。山林にも40年間商品とはならない杉を植えた。この集落は地域の自立ができず「限界集落」になってしまった。もう一つの集落は国策にしたがわずに広葉樹を残し、広葉樹林を利用して多様な農産物(しいたけ、栗など)をつくり続けた。この集落では地元で若者が戻り後継者がこれらの農産物で生活ができ、子どもが増えて地域が自立できている。この地域に「限界集落」は一つもない。物事には多様性が重要であり、一つの方向にみんなが向く事に危うさがあるとの示唆も思える。一方、構造設計界であるが、構造計算の多様性がどんどん失われてゆき国策で構造計算が一つの方向に向かっていく実感がある。まさに「限界(構造計算)集落」に向かっているのでは。(菅谷)